

踏海の朝 下田湊で夢見たもの

「明治維新の先駆者」として今日も敬愛され続けている吉田松陰が、安政の大獄に連座し刑死してから本年で150年となります。松陰が下田で実行した踏海の企ては、下田に入港したペリー艦隊に便乗し、海外に密航するといふ大胆な計画でした。それは日本国の行く末を深く愛し、国禁を犯す決死の覚悟で臨んだ行為であり、結果、失敗に終わりましたが、後に松下村塾で教え、明治維新の原動力となった多くの逸材を生み出す契機の一つとなりました。

幕末を駆け抜けた志士 吉田松陰

下田での踏海に至るまで

吉田松陰は、江戸時代後期の天保元年（1830）、長門国萩に生まれました。幼少より学問に秀で、19歳で伝統的な兵法（山鹿流兵法）師範として明倫館で教鞭を執りました。しかし、眠れる獅子と恐れられていた清国がアヘン戦争でイギリスに惨敗したことを知り、西洋列強の強さと、旧来の日本兵法が時代遅れとなったことを痛感し、九州や東北に遊学した後、江戸にて佐久間象山に師事し、儒学や洋学、砲学などを学びました。そして嘉永6年（1853）、浦賀に来航したペリー艦隊の圧倒的な軍事力に接したことにより、海外渡航し、西洋事情を学ぶ決意を固めました。翌嘉永7年、日米和親条



松陰が治療した蓮台寺村山邸（静岡県指定史跡 吉田松陰寓居処）

約締結のため、ペリー艦隊が再び来航したことを知り、松陰は志を共にする金子重輔と密航を企てました。横浜では機会が得られなかったため、2人は開港場となった下田を目指しました。

下田での松陰

松陰らが下田に到着したのは嘉永7年3月18日午後でした。幕吏の目をくらすため、松陰は瓜中万二、重輔は市木公太と変名し、岡村屋に宿をとりました。

翌日は下田湾の黒船を観察し、情報収集しながら過ごしましたが、松陰の持病である疥癬（皮膚病）が発したため、20日には蓮台寺温泉に向かいました。蓮台寺の共同湯で医者村山行馬郎に出会い、その好意を受け、下田と蓮台寺を行き来しながら3日間、村山邸（現吉田松陰寓居処）に泊まることになりました。

最初に密航を実行したのは25日夜半過ぎのことでした。稲生沢川河口より小舟で漕ぎ出しましたが、波が高く断念。岸に上がり柿崎弁天島の祠で夜を明かしました。2日後の27日、再び密航を企てた二人は、蓮台寺で入浴した後、夜半過ぎに弁天島付近より小舟に乗って沖の黒船に向かいました。ようやくペリー提督の乗るポーハタン号に漕ぎ寄せ、飛び乗りました。



踏海の朝像（吉田松陰と金子重輔） 柿崎弁天島公園内

松陰のその後

江戸での取調べの後、郷里萩の野山獄に収監されました。26歳の時、生家預かりとなり、叔父の玉木文之進が開いていた松下村塾を引き継いで主宰者となりました。



拘禁之跡（中央公民館）

安政5年（1858）、幕府が朝廷の勅許を得ずに日米修好通商条約を締結すると、松陰は激しく非難し、幕府老中間部詮勝の暗殺を企てました。警戒した長州藩は再び松陰を投獄し、井伊直弼による安政の大獄が始まると、江戸に送致され、安政6年（1859）10月27日に江戸伝馬町の獄で処刑されました。享年30歳でした。

松陰は下田での密航について、次の句を詠みました。

世の人は
よしあしごともしはばいへ
賤が誠は神ぞ知るらん
藤寅

（要約）
世間の人は、良くも悪くも言いたいようにいえばいい。私の誠は神が知っているのだから。



上：松陰と重輔が夜を明かした柿崎弁天祠
右下：岡村屋（下田屋旅館）左下：上陸所跡（福浦）



弁天島からの下田港の眺望
松陰はここで何を思ったのだろうか

吉田松陰先生150年祭 萩市訪問下田市民号

参加者募集

下田市の姉妹都市山口県萩市において開催される「吉田松陰先生150年祭」記念式典等に参加し、松陰先生を顕彰するとともに両市間の更なる友好交流を推進するため市民号を企画しました。

・必ず往復はがきにてお申し込み下さい。電話受付不可。
・応募多数の場合は、抽選となります。結果発表は、往復はがきの返信にて行います。

| 行程 | |
|-----------|--|
| 10/24 (土) | 下田駅発(6:43)…【鉄道】…新山口駅…【バス】…萩市到着 |
| 10/25 (日) | 午前:萩市内視察 午後:吉田松陰先生150年祭「記念式典」記念講演、松陰先生ゆかりの地・人のつどい、交流会 |
| 10/26 (月) | 午前:萩松陰神社宝物館内覧会等 午後:萩市出発…【バス】…新山口駅…【鉄道】…博多駅…【地下鉄】…福岡空港…【JAL3819】…富士山静岡空港…【バス】…下田到着 (23:30予定) |

申込・問合せ先
総務課秘書広報係

☎22211

郵送してください。
締切日 9月10日(木)まで
(当日消印有効)

◎返信はがきの記入方法

| | |
|--|---|
| 返信(おもて) | 返信(うら) |
| 〒415-8501 下田市役所総務課 秘書広報係 〒下田市民号係 | ここには何も記入しないでください (白紙のまま) ※参加決定の発表の際に使用します。 |
| 返信(おもて) | 返信(うら) |
| ご自分(代表者)の ①氏名 ②住所 ③年齢 ④電話番号 を記入 | 参加希望者全員の ①氏名 ②住所 ③年齢 ④電話番号 を記入 (はがき1枚で最大4名まで記入可能) |

・応募は1枚のはがきで最大4名まで記入できます。5名以上でお申し込みの場合は、希望者全員が参加できるとは限りません。
・応募はがきについて、同一氏名・同一内容による複数枚の申し込みは受付しませんので予めご了承ください。